

我が校の強み弱み分析・評価シート

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要と強み・弱み》調査人数が少ないため、全体的な傾向を捉えることは難しいですが以下の結果が見られました。

<教科について>

- ・国語科では、どの領域においても県の結果と大きく変わることはありませんでしたが、「書くこと」の領域においては、県や全国よりも大きく低い正答率でした。
- ・算数科では、「変化と関係」の領域や「選択式」の問題形式に県や全国を上回る正答率でした。しかし「図形」の領域では、県や全国よりも低い正答率となりました。
- ・理科では、「エネルギーを柱とする領域」において、県や全国よりも高い正答率でした。唯一、器具名を解答する問題では、特に低い正答率となりました。

<児童質問紙について>

肯定的に回答する児童が多い項目

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」、「新聞を読んでいますか」、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」

課題の見られる項目

「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していますか」、「読書が好きですか」、「ICT活用について」

【指導の充実に向けて】

本校教育の充実と課題解決のため、つぎの項目において重点的に取組を進めます。

1. ICT学習・プログラミング学習の促進

⇒1年生からのタブレット導入にともなって、教員は積極的にICT機器を活用し、ICTの利点を生かした授業づくりを推進する。児童のプログラミング的思考を培うために、社会人活用の先生の助言を受けながらプログラミング教育の基盤を構築していく。

2. 生徒指導の充実

⇒皇子山学区の5つの約束について継続して指導し共通実践していく。小中連携を図りながら、児童が自らあたりまえのこととして取り組んでいけるように、くつそろえの啓発や黙々掃除の取組やカードの配布など工夫を図りながら指導を進める。

3. 授業改善・学力向上

⇒・児童教師ともに「わかる」「できた」の喜びを味わわせるために、単元を見通した授業づくりを進める。コロナ禍で制限されている中ではあるが、ペアやグループでの話し合い活動を取り入れながら、授業の中での伝え合う喜びや、お互いの意見を認めあえるように授業改善を図る。また、朝のチャレンジタイムや学習教室を通して、基礎学力の向上やつまずきの克服に努める。本校の特に課題である「書くこと」については、日ごろから日記やテーマ作文、文字を制限しての短文づくり等を積極的に学習に取り入れ、書く習慣をつけていく取組を進めていく。スモールステップで積み重ねながら自信をつけて学習に取り組ませていきたい。

・図書室の環境整備を進め、読書の推進を図る。（「ふじぶっくつうちょう」の活用等）読書・読み聞かせ等、本にふれることで、表現力や語彙力を養っていく。

4. 特別支援教育の促進と充実

⇒総合的な学習の時間に社会福祉や障がい者理解について学習する機会を位置づけて、系統的な学びを推進する。

5. 地域と学校の絆を結ぶ教育

⇒地域のことを大切に思う児童が多くいることは最大の利点である。コミュニティスクールの観点から地域との連携を図り、学習広場の取組や地域に根差して地域人材を活用した取組などのさらなる活性化を図る。HPや学校だより等で地域への発信を随時行っていく。